

# 中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

平成30年 1月～ 3月実績

平成30年 4月～ 6月見通し

福井県商工会連合会

## 1. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100.0%）
6. 調査対象期間 平成30年1～3月期実績及び平成30年4～6月期見通し
7. 調査時点 平成30年3月1日（木）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.5%	24	14.5%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

### 9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について＜増加・上昇・好転＞の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

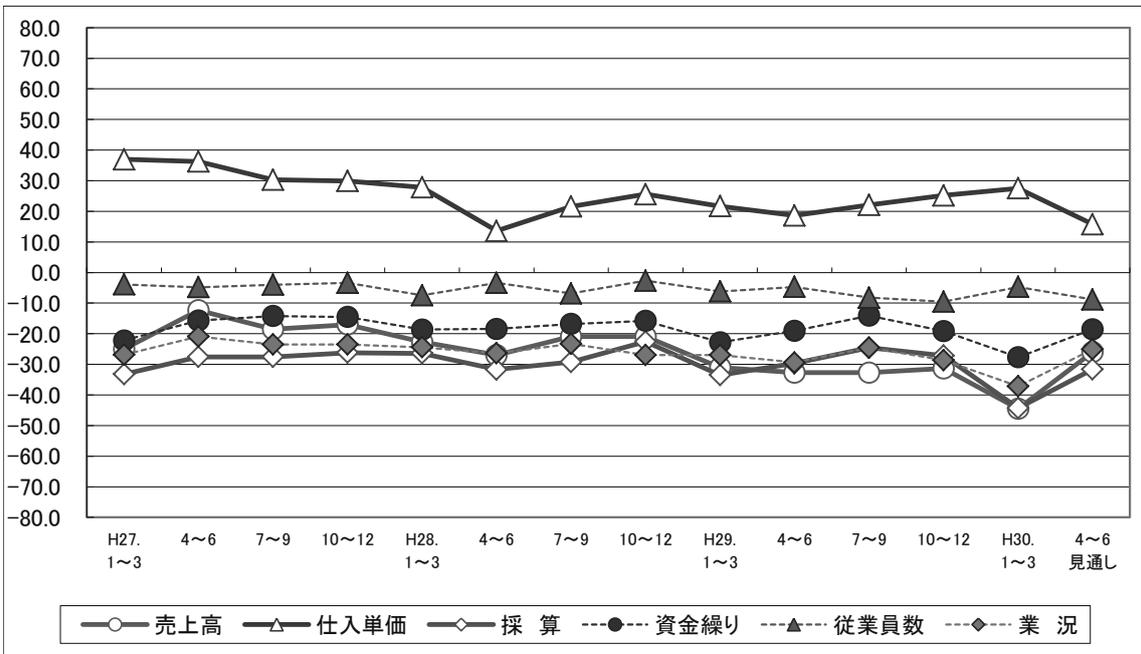
$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

### 10. 分析執筆者 福井県立大学 地域経済研究所長 教授 南保勝氏

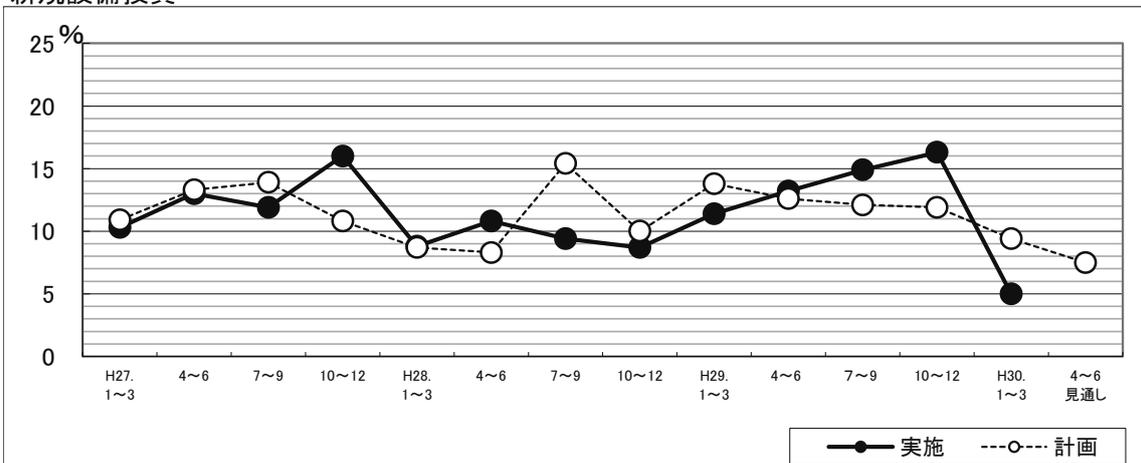
## 全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向推移(前年同期比:DI値)

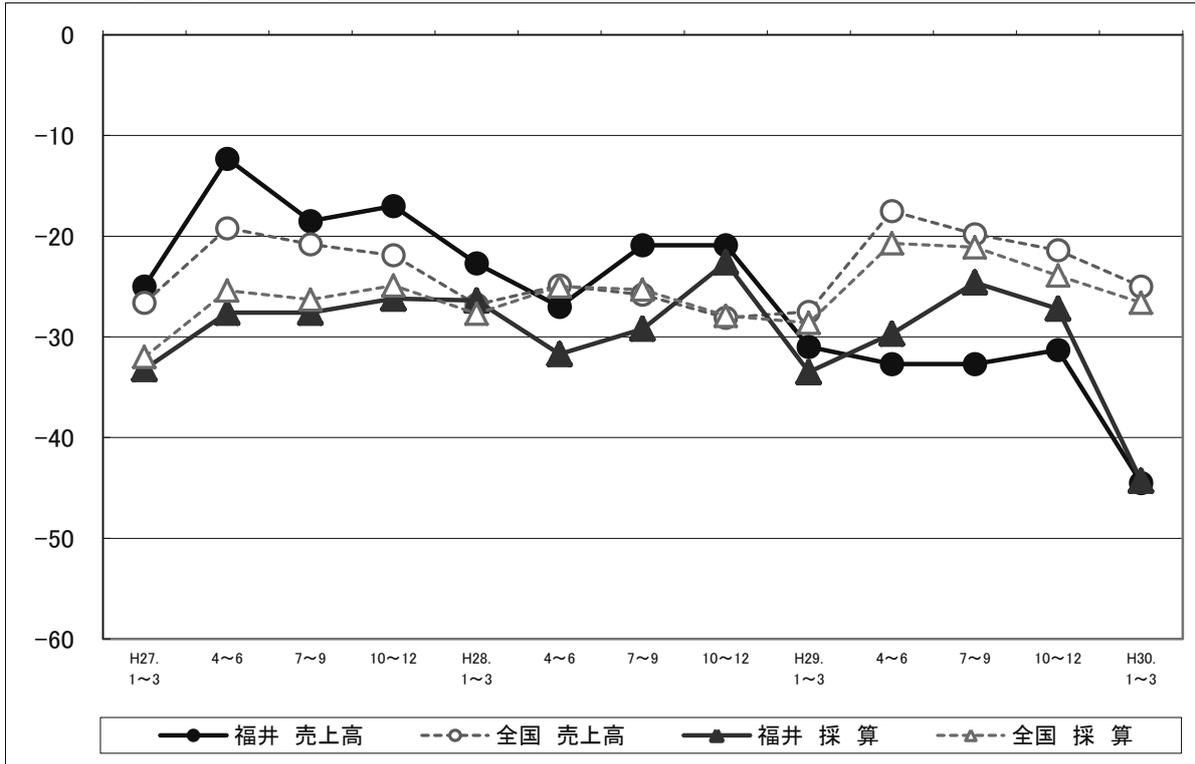
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H27.1~3	▲ 25.0	37.0	▲ 33.2	▲ 22.2	▲ 3.9	▲ 26.9
4~6	▲ 12.3	36.3	▲ 27.6	▲ 15.7	▲ 4.8	▲ 20.9
7~9	▲ 18.5	30.3	▲ 27.6	▲ 14.2	▲ 4.0	▲ 23.5
10~12	▲ 17.0	29.9	▲ 26.2	▲ 14.5	▲ 3.4	▲ 23.5
H28.1~3	▲ 22.7	27.8	▲ 26.4	▲ 18.6	▲ 7.4	▲ 24.4
4~6	▲ 27.0	13.6	▲ 31.7	▲ 18.4	▲ 3.4	▲ 26.4
7~9	▲ 20.9	21.6	▲ 29.2	▲ 16.8	▲ 6.8	▲ 23.3
10~12	▲ 20.9	25.6	▲ 22.6	▲ 15.8	▲ 2.7	▲ 27.0
H29.1~3	▲ 31.0	21.7	▲ 33.5	▲ 22.8	▲ 6.2	▲ 27.0
4~6	▲ 32.7	18.6	▲ 29.7	▲ 19.0	▲ 4.7	▲ 29.4
7~9	▲ 32.7	22.1	▲ 24.6	▲ 14.1	▲ 8.2	▲ 24.6
10~12	▲ 31.3	25.2	▲ 27.2	▲ 19.1	▲ 9.5	▲ 28.6
H30.1~3	▲ 44.5	27.5	▲ 44.3	▲ 27.7	▲ 4.7	▲ 37.2
4~6見通し	▲ 26.0	15.8	▲ 31.6	▲ 18.5	▲ 8.8	▲ 25.1



### 新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

平成30年1～3月期の福井県経済を概観すると、需要面では、2月の大豪雪発生の影響もあり、大型店（百貨店・スーパー）で衣料品の動きが鈍かったものの、飲食料品や高額品等に動きがみられたことから緩やかに回復。コンビニエンスストア販売、ドラッグストア販売等も堅調に推移した。ただ、家電販売は白物家電等の動きが鈍いことから回復のテンポは緩やかとなっているほか、主要観光地の入込や温泉宿泊者数も大豪雪の影響で前年割れとなった。供給面では、繊維や眼鏡枠といった地場産業で製品別の生産状況にバラツキが見られるものの、基調としては電子部品・デバイスがスマートフォン向けを中心に、機械関連も自動車変速部品中心に堅調な生産・出荷動向を維持しており、業種間、企業規模間格差はぬぐえないものの、全体としては回復傾向を維持している。

こうした中、今期（H30年1～3月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目のうち1項目のみ改善、残り5項目で悪化傾向を示している。改善した項目は従業員数で、前期▲9.5→今期▲4.7へと改善している。また、悪化した項目は、売上高（前期▲31.3→今期▲44.5）、仕入単価（逆指数）で前期25.2→今期27.5、採算（前期▲27.2→今期▲44.3）、資金繰り（前期▲19.1→▲27.7）、業況（前期▲28.6→今期▲37.2）となっている。県内中小企業の景況感は、回復基調にあるとはいえ、いまだ一進一退で不透明感を残す状況であることが伺える。また、先行き（H30年4～6月期）については、売上高、仕入単価、採算、資金繰り、業況の5項目で改善が進む予測となっている。

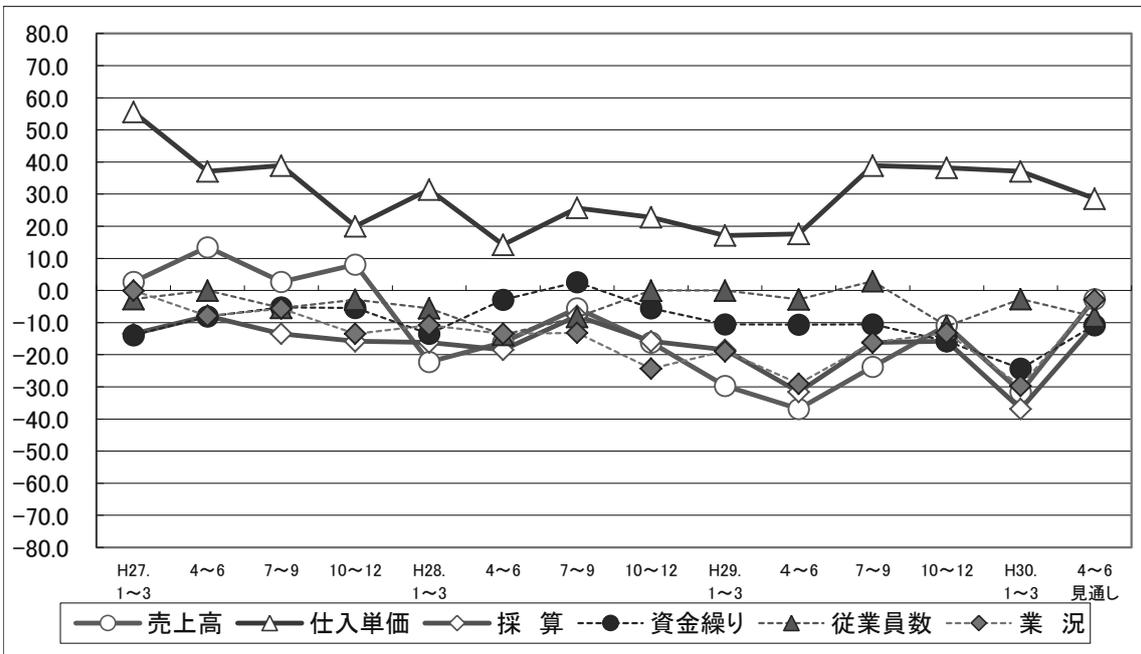
一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、両項目とも全国同様悪化傾向を示しているが、低下幅では福井県が全国を上回っており、この要因として、2月の大豪雪によるところが大きいものと思われる。

そのほか、今期の新規設備投資については、何らかの設備投資を計画している企業ウエイト9.4%に対して実施した企業ウエイトが5.0%にとどまり、低調なものとなった。ただ、先行き（H30年4～6月期）については、計画が7.4%となっており、投資マインドはやや今期を上回ることが期待される。

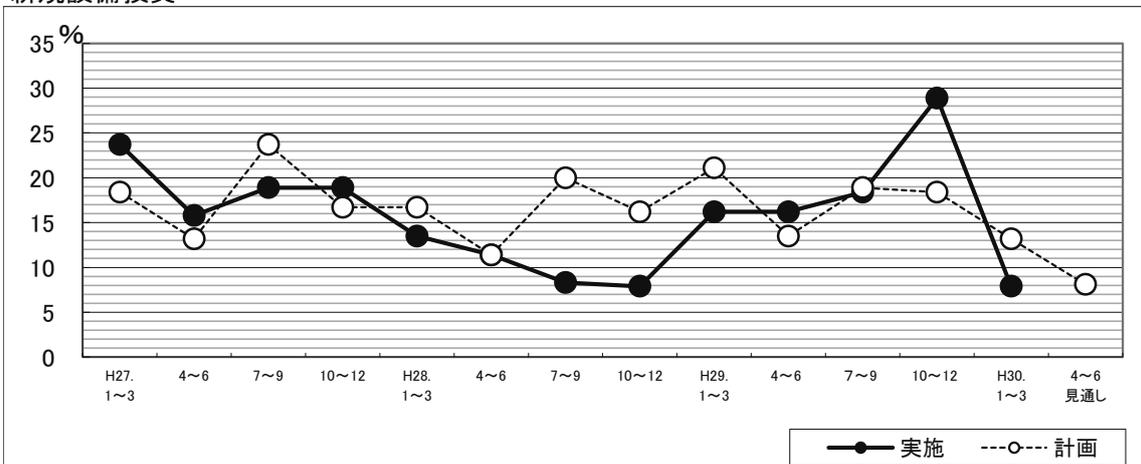
## 製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向(前年同期比:DI値)

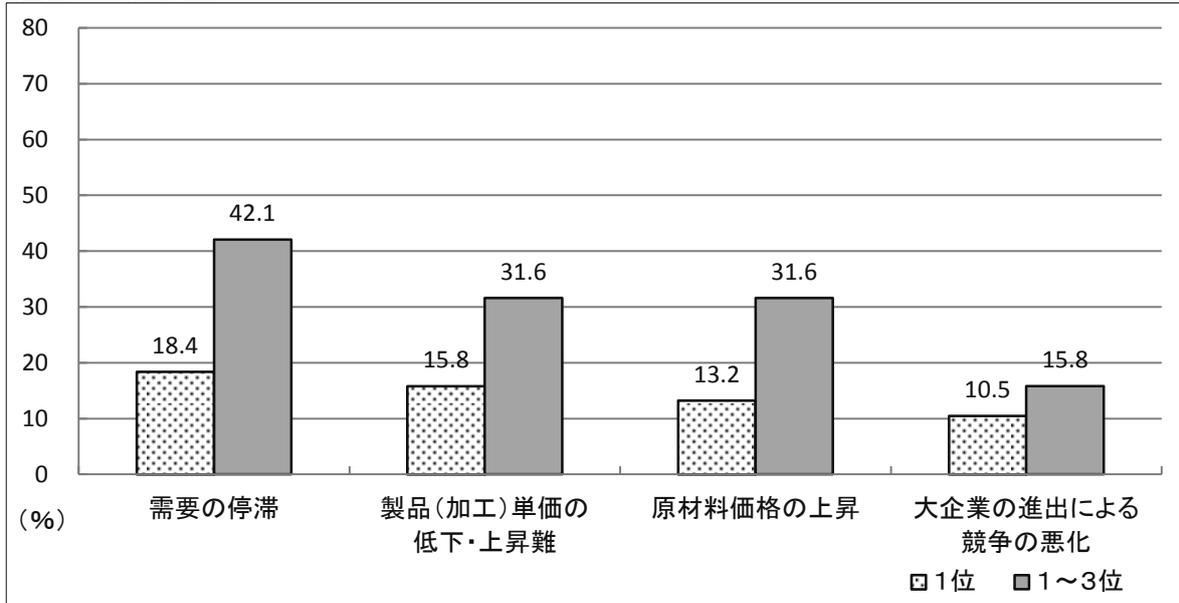
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H27.1~3	2.7	55.6	▲ 13.5	▲ 13.9	▲ 2.7	0.0
4~6	13.5	37.1	▲ 7.9	▲ 8.1	0.0	▲ 7.9
7~9	2.7	38.9	▲ 13.5	▲ 5.2	▲ 5.4	▲ 5.6
10~12	8.1	20.0	▲ 15.8	▲ 5.4	▲ 2.9	▲ 13.5
H28.1~3	▲ 22.2	31.4	▲ 16.2	▲ 13.5	▲ 5.5	▲ 10.8
4~6	▲ 16.2	14.2	▲ 18.5	▲ 2.9	▲ 13.8	▲ 13.5
7~9	▲ 5.5	25.7	▲ 7.9	2.6	▲ 8.3	▲ 13.2
10~12	▲ 16.2	22.8	▲ 15.8	▲ 5.5	0.0	▲ 24.3
H29.1~3	▲ 29.7	17.1	▲ 18.5	▲ 10.5	0.0	▲ 18.9
4~6	▲ 36.9	17.6	▲ 31.6	▲ 10.6	▲ 2.8	▲ 29.0
7~9	▲ 23.7	38.9	▲ 16.2	▲ 10.5	2.9	▲ 16.2
10~12	▲ 10.8	38.2	▲ 15.8	▲ 15.8	▲ 11.1	▲ 13.2
H30.1~3	▲ 31.6	37.1	▲ 36.9	▲ 24.3	▲ 2.7	▲ 29.7
4~6見通し	▲ 2.7	28.6	▲ 10.6	▲ 10.8	▲ 8.1	▲ 2.9



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・ 価格競争により低単価で生産を余儀なくされ、売上が伸びがたい状況になっている。
- ・ 大雪のため売上は大きく減少したが、国体関係の新商品を展開するため売上は改善の予定。
- ・ 新規の引き合いなどもあり業界全体としては動きつつある。

## 製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、地場産業では引き続き眼鏡枠が低位ながら、繊維は非衣料向けで堅調を持続、衣料品も動きがみられる。そのほか、主要産業では、電子部品・デバイスがスマートフォン向けを中心に拡大しているほか、輸送機械などでも自動車変速装置部品を中心に緩やかに回復している。非鉄金属も自動車向けで動きがみられることから、拡大しつつある。そのため、全体としては、業種間でバラツキを伴いつつも、概ね緩やかな回復が続いているといえる。

しかし、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目のうち4項目で悪化傾向となった。ちなみに、各項目の動きをみると、売上高が前期▲10.8→今期▲31.6へ、仕入単価（逆指標）が前期38.2→今期37.1へ、採算が前期▲15.8→▲36.9へ、資金繰りが前期▲15.8→今期▲24.3へ、従業員数が前期▲11.1→今期▲2.7へ、業況が前期▲13.2→今期▲29.7へと変化している。また、先行き（H30年4～6月期）については、6項目中5項目で改善へと向かっている。

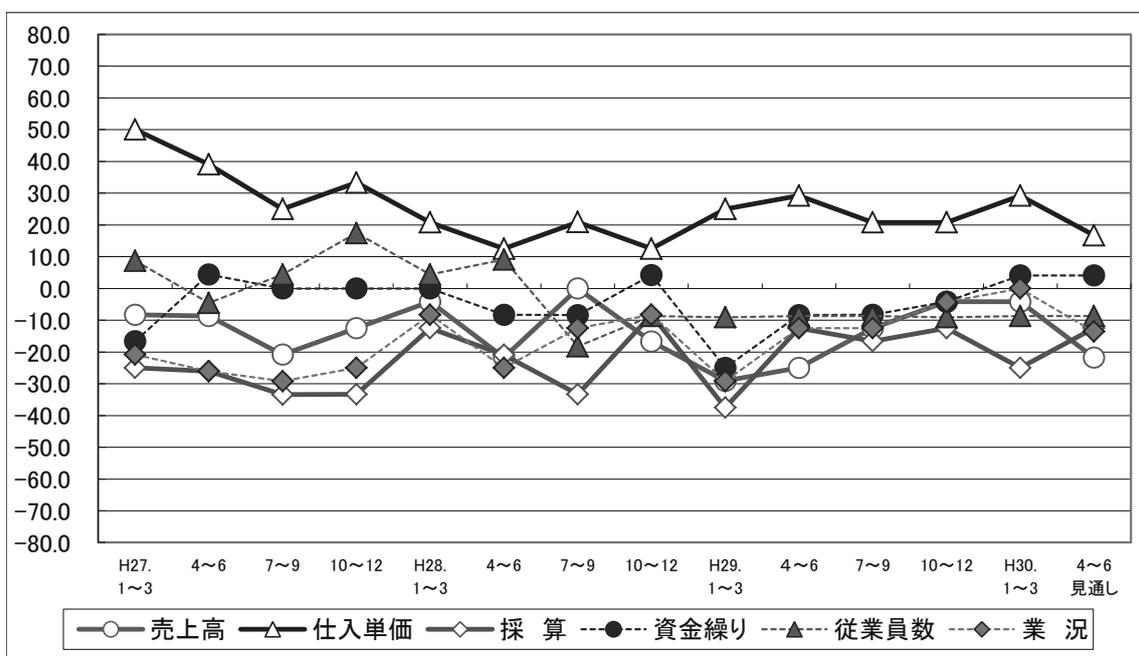
一方、新規設備投資の状況については、計画の13.2%に対し実施が7.9%と低い水準の実施状況となった。先行き（H30年4～6月期）についても投資予定企業が8.1%にとどまっております。投資マインドは引き続き控えめな状況となることが予想される。

最後に、経営上の問題点については、「需要の停滞」（1位に挙げた企業18.4%、1位～3位までに挙げた企業42.1%）への指摘が最多となったほか、「製品単価の低下・上昇難」、「原材料価格の上昇」への指摘も比較的多かった。また、個別の件かいは、「新規の引き合いなどもあり業界全体としては動きつつある」、「大雪のため売上は大きく減少したが、国体関係の新商品を展開するため売上は改善の予定」など、先行きに対し明るい声も聞かれた。

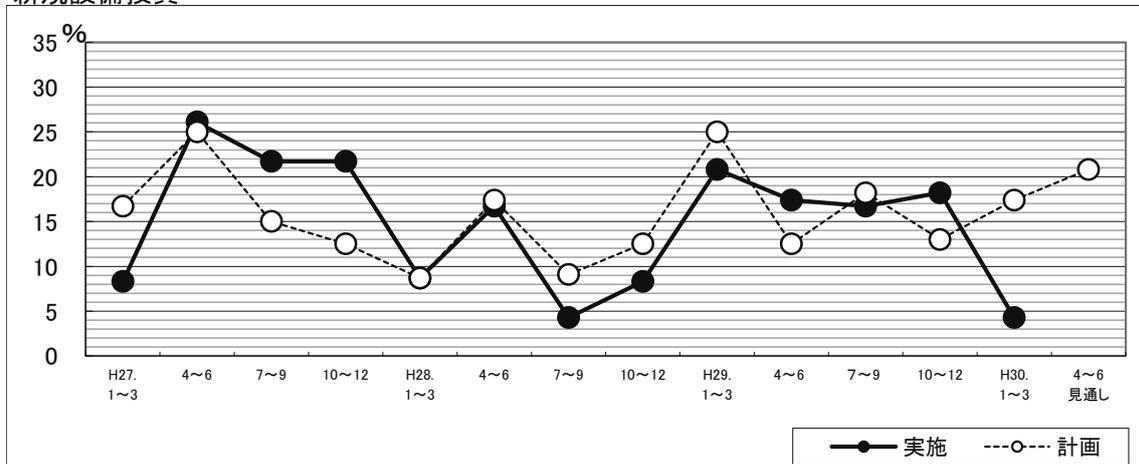
## 建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向(前年同期比:DI値)

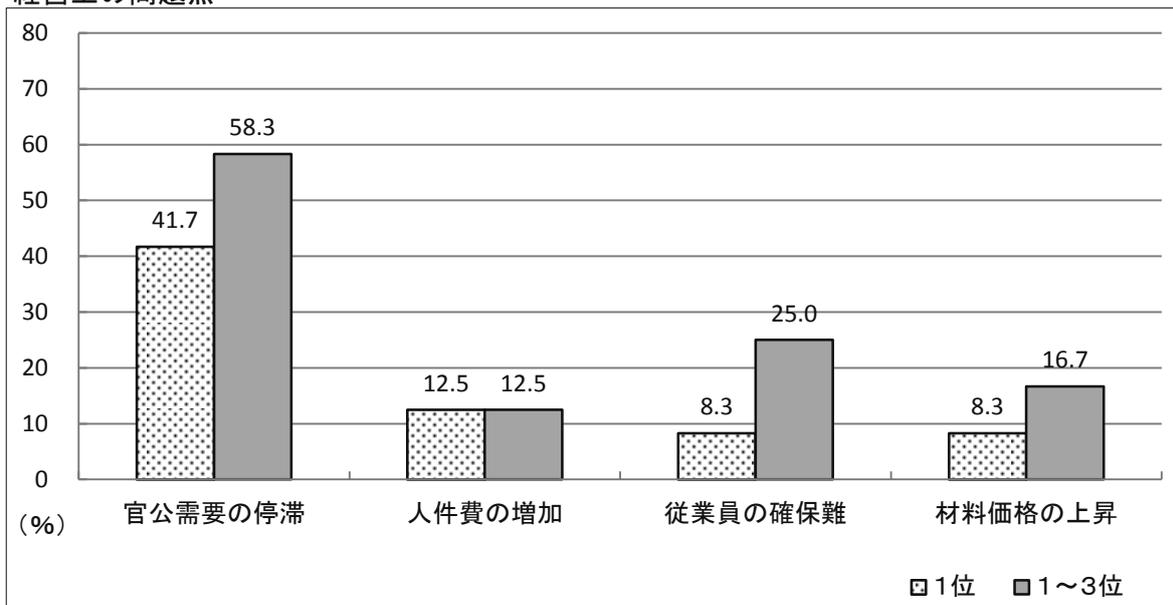
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H27.1~3	▲ 8.3	50.0	▲ 25.0	▲ 16.6	8.7	▲ 20.8
4~6	▲ 8.7	39.1	▲ 26.1	4.4	▲ 4.6	▲ 26.1
7~9	▲ 20.8	25.0	▲ 33.4	0.0	4.4	▲ 29.2
10~12	▲ 12.5	33.3	▲ 33.3	0.0	17.4	▲ 25.0
H28.1~3	▲ 4.2	20.8	▲ 12.5	0.0	4.4	▲ 8.3
4~6	▲ 21.8	12.5	▲ 20.9	▲ 8.3	9.1	▲ 25.0
7~9	0.0	20.9	▲ 33.3	▲ 8.4	▲ 18.2	▲ 12.5
10~12	▲ 16.7	12.5	▲ 8.3	4.2	▲ 8.7	▲ 8.3
H29.1~3	▲ 29.1	25.0	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 9.1	▲ 29.2
4~6	▲ 25.0	29.2	▲ 12.5	▲ 8.4	▲ 8.7	▲ 12.5
7~9	▲ 12.5	20.8	▲ 16.6	▲ 8.3	▲ 8.7	▲ 12.5
10~12	▲ 4.2	20.8	▲ 12.5	▲ 4.2	▲ 9.1	▲ 4.3
H30.1~3	▲ 4.2	29.2	▲ 25.0	4.1	▲ 8.7	0.0
4~6見通し	▲ 21.8	16.7	▲ 12.5	4.1	▲ 8.7	▲ 13.6



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・民間工事の受注に力を入れているが、請負金額の減少が予想される。
- ・官公需要が下げ止まりのため基本的には不変だが、悪い状況での不変なので厳しい。
- ・資材単価が上昇している。人材不足もあり効率の悪い経営となっている。

## 建設業の景況

福井県内における平成29年度（H29年4月－H30年3月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で1,337億96百万円の前年同期比3.4%減、発注件数は同3,956件の同7.9%増となっている。これを主な発注者別でみると、独立行政法人等の関連工事で354億86百万円の同15.6%増、県関連工事等で467億39百万円の同3.2%増となったものの、主力の市町村関連工事（377億45百万円の同7.2%減）や、国家関連工事（122億00百万円の同28.3%減）などでは前年実績を下回っている。一方、住宅投資については、平成29年4月－平成30年2月までの11か月累計で、前年同期比5.3%減の3,488戸であった。ちなみに、利用関係別では主力の持家が前年同期比6.9%減の2,073戸、貸家が同3.2%減の1,048戸となっている。

こうした中で今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目中、仕入単価（逆指数）（前期20.8→今期29.2）と採算（前期▲12.5→今期▲25.0）で悪化、売上高（前期▲4.2→今期▲4.2）が前期並みとなった以外、資金繰り（前期▲4.2→今期4.1）、従業員数（前期▲9.1→今期▲8.7）、業況（前期▲4.3→今期0.0）の3項目で改善となるなど、項目によるバラツキが目立っている。また、先行き（H30年4－6月期）についても、悪化予測が売上高と業況にとどまり、残り4項目は横ばいまたは改善予測となっている。

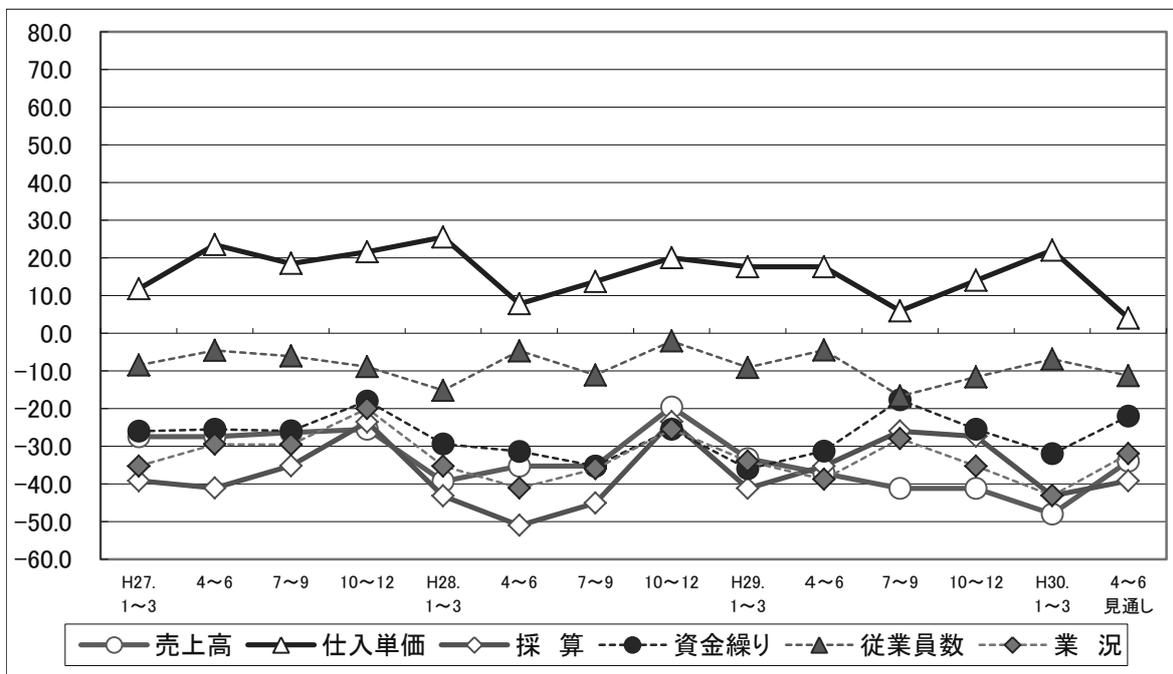
一方、今期の新規設備投資については、計画した企業17.4%に対し実施した企業が4.3%と低調であったものの、先行き（H30年4－6月期）については何らかの投資計画を持つ企業が20.8%を占めるなど、先行きに明るさがみられる。

最後に、経営上の問題点については、「官公需要の停滞」への指摘が極めて高く、1位に挙げた企業ウエイト41.7%、1位～3位までに挙げた企業58.3%に達している。また、個別の見解として「民間工事の受注に力を入れているが、請負金額の減少が予想される」、「官公需要が下げ止まりのため基本的には不変だが、悪い状況での不変なので厳しい」、「資材単価が上昇している。人材不足もあり効率の悪い経営となっている」などの悲観的な指摘が目立っている。

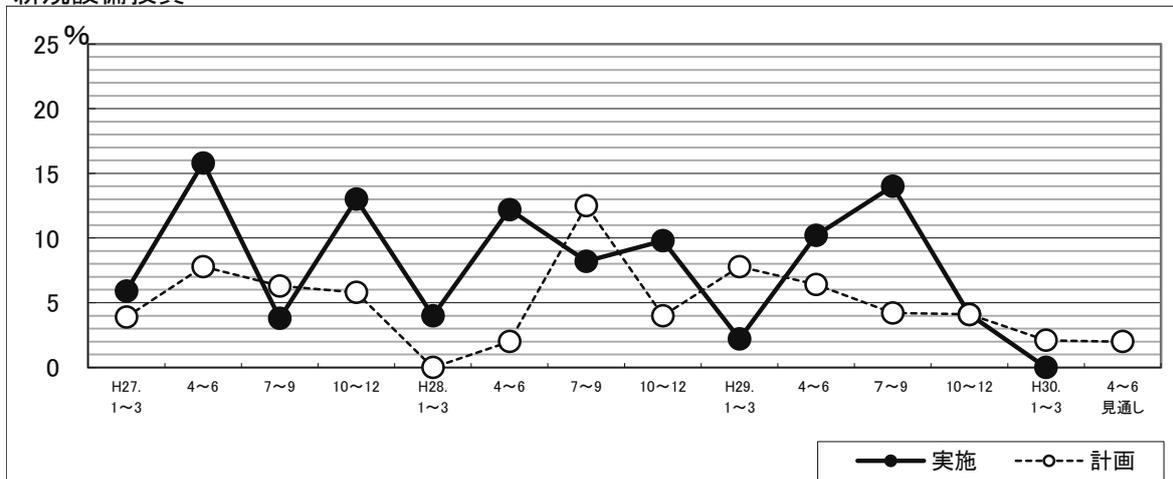
## 小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向(前年同期比:DI値)

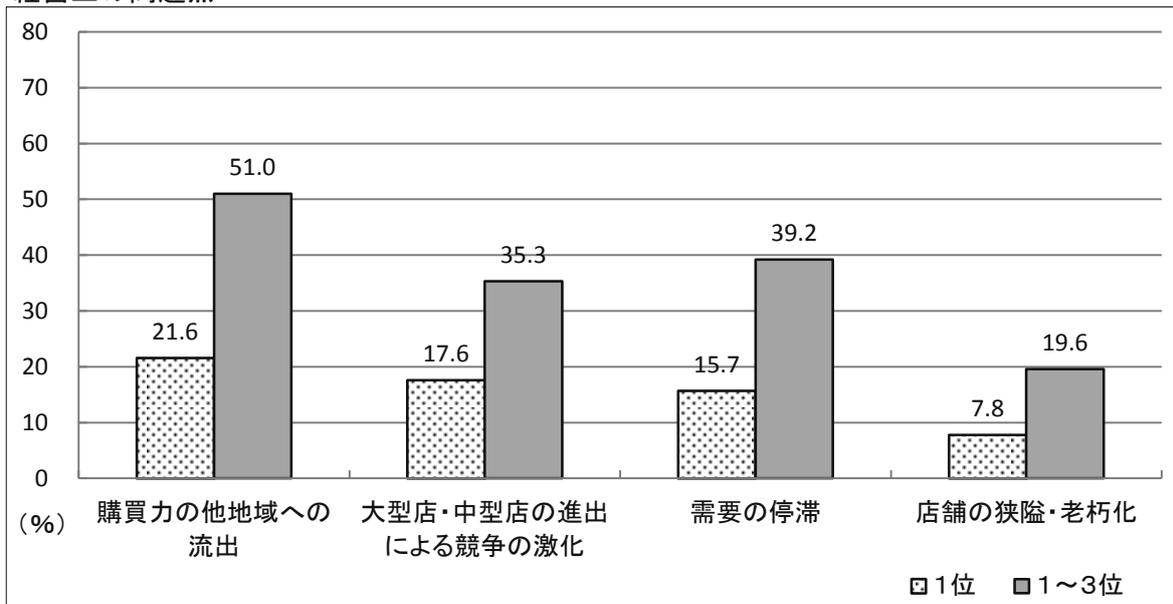
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H27.1~3	▲ 27.5	11.8	▲ 39.2	▲ 26.0	▲ 8.5	▲ 35.3
4~6	▲ 27.5	23.5	▲ 41.1	▲ 25.5	▲ 4.6	▲ 29.5
7~9	▲ 26.4	18.5	▲ 35.2	▲ 25.9	▲ 6.1	▲ 29.6
10~12	▲ 25.5	21.6	▲ 23.6	▲ 18.0	▲ 8.9	▲ 20.0
H28.1~3	▲ 39.3	25.5	▲ 43.2	▲ 29.4	▲ 15.2	▲ 35.3
4~6	▲ 35.3	7.8	▲ 51.0	▲ 31.4	▲ 4.7	▲ 41.1
7~9	▲ 35.3	13.7	▲ 45.1	▲ 35.3	▲ 11.1	▲ 36.0
10~12	▲ 19.6	20.0	▲ 23.5	▲ 25.5	▲ 2.1	▲ 25.5
H29.1~3	▲ 33.3	17.6	▲ 41.2	▲ 36.0	▲ 9.1	▲ 34.0
4~6	▲ 37.2	17.6	▲ 35.3	▲ 31.3	▲ 4.5	▲ 38.8
7~9	▲ 41.2	5.9	▲ 26.0	▲ 17.7	▲ 16.7	▲ 28.0
10~12	▲ 41.2	14.0	▲ 27.4	▲ 25.5	▲ 11.6	▲ 35.3
H30.1~3	▲ 48.0	22.0	▲ 43.1	▲ 32.0	▲ 6.9	▲ 43.1
4~6見通し	▲ 34.0	4.0	▲ 39.2	▲ 22.0	▲ 11.3	▲ 32.0



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・ 消費者の購買意欲が消極的である。
- ・ 新企画なしではお客様に足を運んでもらえない。
- ・ 人手不足が深刻な状況。雇用を増やしたい気持ちはあるが募集しても集まらない。

## 小売業の景況

最近の小売商況を外観すると、県内大型店売上高（百貨店＋スーパー）が大豪雪による来店客の減少や不要不急の購入を控える動きにより、前年を下回っているほか、家電専門店などでも大雪の影響でエアコン設置ができないことなどから苦戦を強いられたものの、コンビニエンスストアやドラッグストアなどでは、日持ちするレトルト食品や缶詰の売り上げ増加などにより、概ね順調に推移した。参考までに、近畿経済産業局が公表する2月の大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）の状況は、5,589百万円の前年同期比3.3%減と2か月連続の前年割れとなっている。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目中、従業員数で改善が進んだほかは、5項目で悪化傾向を示している。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高が前期▲41.2→今期▲48.0、仕入単価（逆指数）が前期14.0→今期22.0、採算が前期▲27.4→今期▲43.1、資金繰りが前期▲25.5→今期▲32.0、従業員数が前期▲11.6→▲6.9、業況が前期▲35.3→今期▲43.1となっている。また、先行き（H30年4－6月期）については、従業員数を除く5項目で改善予測が立てられている。

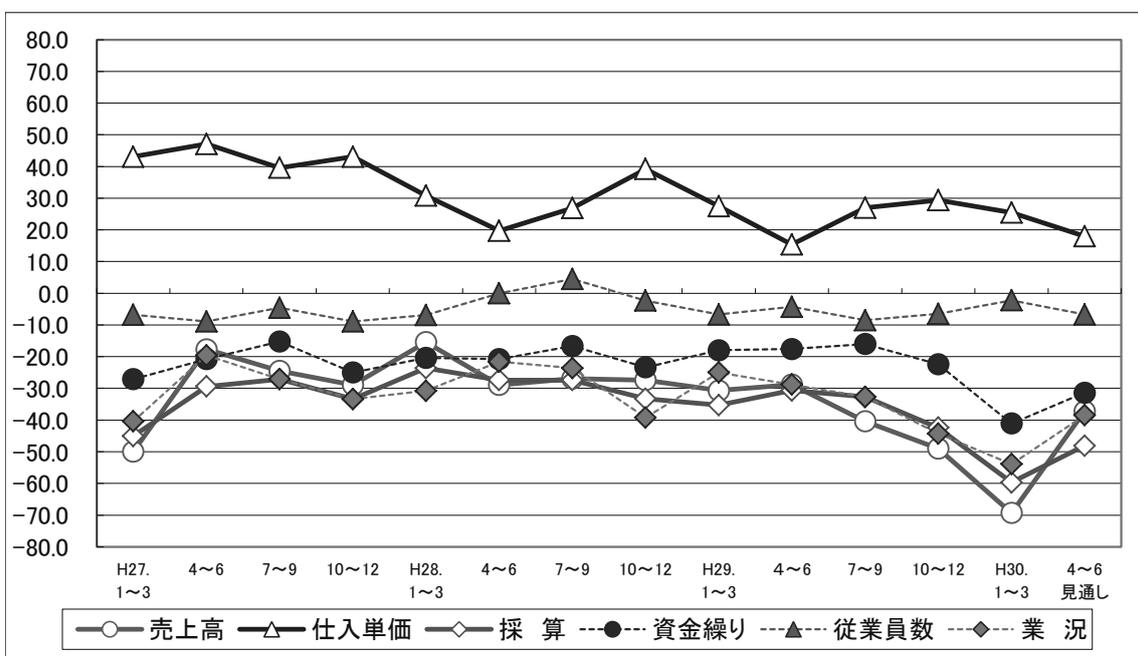
一方、新規設備投資の状況については、今期、計画の2.1%に対し実施は0.0%と低調な推移となっており、先行き（H30年4－6月期）についても、何らかの投資を計画する企業ウエイトが2.0%と低調な予想となっている。

最後に、経営上の問題点については、「購買力の他地域への流出」が最も多く1位に挙げた企業ウエイト21.6%、1位～3位までに挙げた企業51.0%を占めた。次いで、「大型店・中型店の進出による競争の激化」（1位に挙げた企業ウエイト17.6%、1位～3位までに挙げた企業35.3%）と続いている。そのほか、個別の見解として「消費者の購買意欲が消極的である」、「新企画なしではお客様に足を運んでもらえない」、「人手不足が深刻な状況。雇用を増やしたい気持ちはあるが募集しても集まらない」など悲観的な声が多かった。

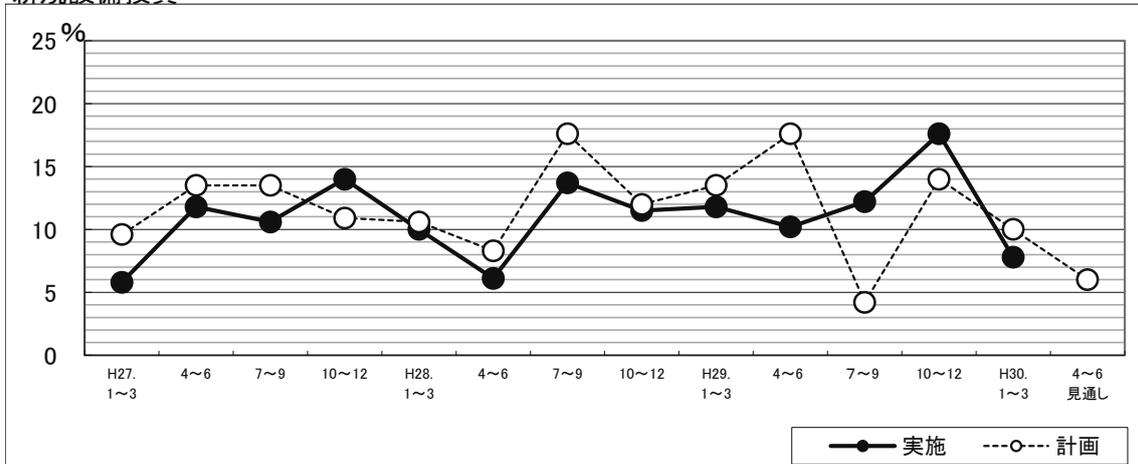
## サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

### 景気動向(前年同期比:DI値)

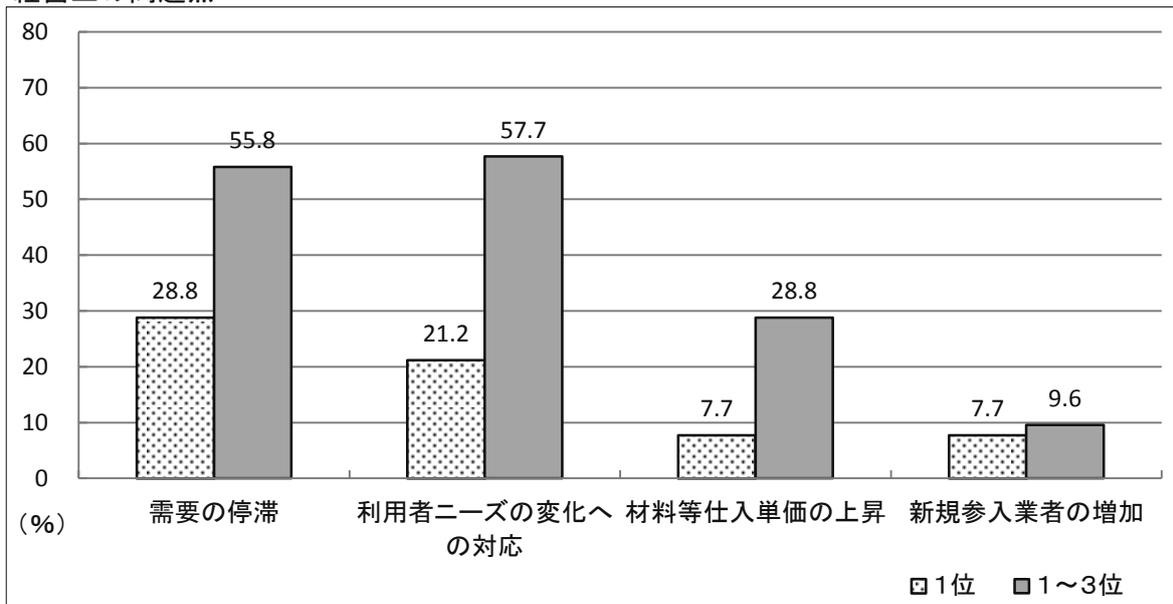
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H27.1~3	▲ 50.0	43.1	▲ 45.1	▲ 27.1	▲ 6.8	▲ 40.4
4~6	▲ 17.7	47.1	▲ 29.4	▲ 20.8	▲ 8.9	▲ 19.6
7~9	▲ 24.5	39.6	▲ 27.1	▲ 15.2	▲ 4.6	▲ 27.1
10~12	▲ 28.9	43.1	▲ 33.4	▲ 25.0	▲ 8.9	▲ 33.4
H28.1~3	▲ 15.4	30.8	▲ 23.6	▲ 20.4	▲ 6.9	▲ 30.8
4~6	▲ 28.9	19.7	▲ 27.4	▲ 20.8	0.0	▲ 21.6
7~9	▲ 26.9	26.9	▲ 27.4	▲ 16.7	4.5	▲ 23.6
10~12	▲ 27.4	39.2	▲ 33.3	▲ 23.4	▲ 2.3	▲ 39.2
H29.1~3	▲ 30.7	27.5	▲ 35.3	▲ 18.0	▲ 6.7	▲ 25.0
4~6	▲ 28.8	15.4	▲ 30.7	▲ 17.6	▲ 4.3	▲ 28.8
7~9	▲ 40.4	27.0	▲ 32.7	▲ 16.0	▲ 8.5	▲ 32.7
10~12	▲ 49.0	29.4	▲ 42.4	▲ 22.4	▲ 6.5	▲ 44.3
H30.1~3	▲ 69.3	25.5	▲ 59.7	▲ 41.1	▲ 2.2	▲ 53.9
4~6見通し	▲ 37.2	18.0	▲ 48.1	▲ 31.4	▲ 6.7	▲ 38.5



### 新規設備投資



## 経営上の問題点



## 調査企業の声

- ・顧客の高齢化によってヘアーの施術間隔が長くなってきている。送迎サービスも行っているが状況は厳しい。若年層の集客を工夫しなければならない。
- ・従業員を募集しているが見つからない。熟練技術者も減るので立ちいかない状況になる。

## サービス業の景況

総務省が毎月実施する「サービス産業動向調査」によると、全国におけるH30年1月のサービス関連産業売上高は29.9兆円で前年同月比1.9%増と、13か月連続の増加となった。産業大分類別の動向をみると、増加した産業は「運輸業、郵便業」（5.2兆円、前年同月比6.1%増）、「サービス業（他に分類されない）」（3.0兆円、同5.0%増）など6産業。減少した産業は「生活関連サービス業、娯楽業」（3.9兆円、同4.7%減）、「宿泊業、飲食サービス業」（2.2兆円、同0.6%減）など3産業であった。また、サービス産業の従業者数は、3,049万人。前年同月比1.7%の増加となっており、増加した産業は「情報通信業」（192万人、前年同月比3.1%増）、「教育、学習支援業」（103万人、同2.9%増）など8産業。減少した産業は「生活関連サービス業、娯楽業」（259万人、同0.5%減）のみとなっている。

こうした中、今回の景況調査をみると、福井県の場合、DI値6項目中、仕入単価、従業員数の2項目で改善し、ほか4項目が悪化となっている。ちなみに、項目別では、売上高が前期▲49.0→今期▲69.3、仕入単価（逆指数）が前期29.4→今期25.5、採算が前期▲42.4→今期▲59.7、資金繰りが前期▲22.4→今期▲41.1、従業員数が前期▲6.5→今期▲2.2、業況が前期▲44.3→今期▲53.9となっている。こうした状況から、県内のサービス業では、全国の動きとは異なり厳しい業況にあるほか、その悪化の状況は他の業種と比較しかなり深刻であることが予測される。ただ、先行き（H30年4-6月期）については、従業員数を除いた5項目で改善予測となっている。

一方、新規設備投資については、計画10.0%に対し実施が7.8%と低調な推移となったほか、先行き（H30年4-6月期）についても6.0%と、やや伸び悩んでいることが予想される。

最後に、経営上の問題点については、「需要の停滞」（1位に挙げた企業ウエイト28.8%、1位～3位までに挙げた企業55.8%）への指摘が最も多い。また、「利用者ニーズの変化への対応」への指摘も比較的多く、1位に挙げた企業ウエイトが21.2%、1位～3位までに挙げた企業57.7%となっている。そのほか、個別企業の見解としては「顧客の高齢化によってヘアーの施術間隔が長くなってきている。送迎サービスも行っているが状況は厳しい」、「従業員を募集しているが見つからない。熟練技術者も減るので立ちいかない状況になる」など悲観的な指摘が目立っている。

全国・福井景気動向 平成30年1月～3月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 25.0	32.2	▲ 26.6	▲ 17.1	▲ 5.5	▲ 22.2
	製造業						
	DI値	▲ 14.3	39.4	▲ 16.7	▲ 11.8	▲ 2.7	▲ 11.2
	建設業						
	DI値	▲ 9.7	31.8	▲ 14.3	▲ 5.9	▲ 7.4	▲ 6.1
	小売業						
	DI値	▲ 38.9	26.3	▲ 36.7	▲ 24.1	▲ 5.6	▲ 35.7
	サービス業						
DI値	▲ 26.6	33.3	▲ 29.6	▲ 19.4	▲ 6.2	▲ 24.8	
福井	全体						
	DI値	▲ 44.5	27.5	▲ 44.3	▲ 27.7	▲ 4.7	▲ 37.2
	製造業						
	DI値	▲ 31.6	37.1	▲ 36.9	▲ 24.3	▲ 2.7	▲ 29.7
	建設業						
	DI値	▲ 4.2	29.2	▲ 25.0	4.1	▲ 8.7	0.0
	小売業						
	DI値	▲ 48.0	22.0	▲ 43.1	▲ 32.0	▲ 6.9	▲ 43.1
サービス業							
DI値	▲ 69.3	25.5	▲ 59.7	▲ 41.1	▲ 2.2	▲ 53.9	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。